

使徒 15

“さて、ある人々がユダヤから下って来て、兄弟たちに、「モーセの慣習に従って割礼を受けなければ、あなたがたは救われない」と教えていた。”

使徒の働き 15章1節

“そしてパウロやバルナバと彼らとの間に激しい対立と論争が生じたので、パウロとバルナバと、その仲間のうちの幾人かが、この問題について使徒たちや長老たちと話し合うために、エルサレムに上ることになった。”

使徒の働き 15章2節

“彼らは教会の人々に見送られ、フェニキヤとサマリヤを通る道々で、異邦人の改宗のことを詳しく話したので、すべての兄弟たちに大きな喜びをもたらした。エルサレムに着くと、彼らは教会と使徒たちと長老たちに迎えられ、神が彼らとともにいて行われたことを、みなに報告した。”

使徒の働き 15章3～4節

“しかし、パリサイ派の者で信者になった人々が立ち上がり、「異邦人にも割礼を受けさせ、また、モーセの律法を守ることを命じるべきである」と言った。そこで使徒たちと長老たちは、この問題を検討するために集まった。”

使徒の働き 15章5～6節

“激しい論争があつて後、ペテロが立ち上がって言った。「兄弟たち。ご存じのとおり、神は初めのころ、あなたがたの間で事をお決めになり、異邦人が私の口から福音のことばを聞いて信じるようにされたのです。

そして、人の心の中を知っておられる神は、私たちに与えられたと同じように異邦人にも聖霊を与えて、彼らのためにあかしをし、私たちと彼らとに何の差別もつけず、彼らの心を信仰によってきよめてくださったのです。

使徒の働き 15章7～9節

“それなのに、なぜ、今あなたがたは、私たちの父祖たちも私たちも負いきれなかつたくびきを、あの弟子たちの首に掛けて、神を試みようとするのです。

私たちが主イエスの恵みによって救われたことを私たちは信じますが、あの人たちもそうなのです。」”

使徒の働き 15章10～11節

“すると、全会衆は沈黙してしまった。そして、バルナバとパウロが、彼らを通して神が異邦人の間で行われたしるしと不思議なわざについて話すのに、耳を傾けた。

ふたりが話し終えると、ヤコブがこう言った。「兄弟たち。私の言うことを聞いてください。」”

使徒の働き 15章12～13節

“神が初めに、どのように異邦人を顧みて、その中から御名をもって呼ばれる民をお召しになったかは、シメオンが説明したとおりです。

預言者たちのことばもこれと一致しており、それにはこう書いてあります。

『この後、わたしは帰って来て、倒れたダビデの幕屋を建て直す。すなわち、廢墟と化した幕屋を建て直し、それを元どおりにする。』”

それは、残った人々、すなわち、わたしの名で呼ばれる異邦人がみな、主を求めるようになるためである。

大昔からこれらのことを知らせておられる主が、こう言われる。』”

使徒の働き 15章 14～18節

”その日、わたしはダビデの倒れている仮庵を起し、その破れを繕い、その廃墟を復興し、昔の日のようにこれを建て直す。

これは彼らが、エドムの残りの者と、わたしの名がつけられたすべての国々を手に入れるためだ。――これをなされる主の御告げ――”

アモス書 9章 11～12節

”見よ。その日が来る。――主の御告げ――その日には、耕す者が刈る者に近寄り、ぶどうを踏む者が種蒔く者に近寄り。山々は甘いぶどう酒をしたたらせ、すべての丘もこれを流す。

わたしは、わたしの民イスラエルの繁栄を元どおりにする。彼らは荒れた町々を建て直して住み、ぶどう畑を作って、そのぶどう酒を飲み、果樹園を作って、その実を食べる。

わたしは彼らを彼らの地に植える。彼らは、わたしが彼らに与えたその土地から、もう、引き抜かれることはない」とあなたの神、主は、仰せられる。”

アモス書 9章 13～15節

”見よ。その日が来る。――主の御告げ――その日、わたしは、イスラエルの家とユダの家とに、新しい契約を結ぶ。

その契約は、わたしが彼らの先祖の手を握って、エジプトの国から連れ出した日に、彼らと結んだ契約のようではない。わたしは彼らの主であったのに、彼らはわたしの契約を破ってしまった。――主の御告げ――

彼らの時代の後に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこうだ。――主の御告げ――わたしはわたしの律法を彼らの中に置き、彼らの心にこれを書きしるす。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。

そのようにして、人々はもはや、『主を知れ』と言って、おのおの互いに教えない。それは、彼らがみな、身分の低い者から高い者まで、わたしを知るからだ。――主の御告げ――わたしは彼らの咎を赦し、彼らの罪を二度と思い出さないからだ。』”

エレミヤ書 31章 31～34節

”そこで、私の判断では、神に立ち返る異邦人を悩ませてはいけません。

ただ、偶像に供えて汚れた物と不品行と絞め殺した物と血とを避けるように書き送るべきだと思います。”

使徒の働き 15章 19～20節

”主は御霊です。そして、主の御霊のあるところには自由があります。

私たちはみな、顔のおおいを取りのけられて、鏡のように主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられて行きます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。”

コリント人への手紙 第二 3章 17～18節

”そこで使徒たちと長老たち、また、全教会もともに、彼らの中から人を選んで、パウロやバルナバといっしょにアンテオケへ送ることを決議した。選ばれたのは兄弟たちの中の指導者たちで、バルサバと呼ばれるユダおよびシラスであった。

彼らはこの人たちに託して、こう書き送った。「兄弟である使徒および長老たちは、アンテオケ、シリア、キリキヤにいる異邦人の兄弟たちに、あいさつをいたします。私たちの中のある者たちが、私たちからは何も指示を受けていないのに、いろいろなことを言ってあなたがたを動揺させ、あなたがたの心を乱したことを聞きました。」

使徒の働き 15章 22～24節

“そこで、私たちは人々を選び、私たちの愛するバルナバおよびパウロといっしょに、あなたがたのところへ送ることに衆議一決しました。

このバルナバとパウロは、私たちの主イエス・キリストの御名のために、いのちを投げ出した人たちです。

こういうわけで、私たちはユダとシラスを送りました。彼らは口頭で同じ趣旨のことを伝えるはずで。”

使徒の働き 15章 25～27節

“聖霊と私たちは、次のぜひ必要な事のほかに、あなたがたにその上、どんな重荷も負わせないことを決めました。

すなわち、偶像に供えた物と、血と、絞め殺した物と、不品行とを避けることです。これらのことを注意深く避けていれば、それで結構です。以上。」”

使徒の働き 15章 28～29節

“さて、一行は送り出されて、アンテオケに下り、教会の人々を集めて、手紙を手渡した。それを讀んだ人々は、その励ましによって喜んだ。

ユダもシラスも預言者であったので、多くのことばをもって兄弟たちを励まし、また力づけた。”

使徒の働き 15章 30～32節

“彼らは、しばらく滞在した後、兄弟たちの平安のあいさつに送られて、彼らを送り出した人々のところへ帰って行った。”

使徒の働き 15章 33節

“パウロとバルナバはアンテオケにとどまって、ほかの多くの人々とともに、主のみことばを教え、宣べ伝えた。

幾日かたって後、パウロはバルナバにこう言った。「先に主のことばを伝えたすべての町々の兄弟たちのところに、またたずねて行って、どうしているか見て来ようではありませんか。」”

使徒の働き 15章 35～36節

“ところが、バルナバは、マルコとも呼ばれるヨハネもいっしょに連れて行くつもりであった。

しかしパウロは、パンフリヤで一行から離れてしまい、仕事のために同行しなかったような者はいっしょに連れて行かないほうがよいと考えた。

そして激しい反目となり、その結果、互いに別行動をとることになって、バルナバはマルコを連れて、船でキプロスに渡って行った。

パウロはシラスを選び、兄弟たちから主の恵みにゆだねられて出発した。

そして、シリアおよびキリキヤを通り、諸教会を力づけた。”

使徒の働き 15章 37～41節